

様式1

大学等名	園田学園大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

プログラムを構成する以下の科目を取得すること。

≪大学共通科目≫
 AIとデータサイエンス 2単位
 基礎情報処理(1) 1単位
 基礎情報処理(2) 1単位

必要最低科目数・単位数

3 科目

4 単位

履修必須の有無

令和9年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					
基礎情報処理(2)	1	○		○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					
基礎情報処理(2)	1	○		○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					

⑦ 「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AIとデータサイエンス	2	○	○	○					
基礎情報処理(1)	1	○	○	○					
基礎情報処理(2)	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○						
基礎情報処理(2)	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「AIとデータサイエンス」(3回目) ・データ量の増加、計算機の処理能力の向上、AIの非連続的变化「AIとデータサイエンス」(3回目) ・第4次産業、Society 5.0、データ駆動社会「AIとデータサイエンス」(3回目)、「基礎情報処理(2)」(8回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「AIとデータサイエンス」(5回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「AIとデータサイエンス」(5回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「AIとデータサイエンス」(5回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル「AIとデータサイエンス」(5回目) ・AI最新技術の活用例「AIとデータサイエンス」(5回目)、「基礎情報処理(2)」(7回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「AIとデータサイエンス」(4回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「AIとデータサイエンス」(4回目) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス」(4回目) ・データの作成「AIとデータサイエンス」(4回目) ・データのオープン化「AIとデータサイエンス」(3回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「AIとデータサイエンス」(5回目)、「基礎情報処理(2)」(7回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「AIとデータサイエンス」(5回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「AIとデータサイエンス」(5回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析「AIとデータサイエンス」(6回目) ・データ可視化「AIとデータサイエンス」(6回目) ・非構造化データ処理「AIとデータサイエンス」(6回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「AIとデータサイエンス」(2回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「AIとデータサイエンス」(6回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル「AIとデータサイエンス」(5回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「AIとデータサイエンス」(5回目)

(4) 活用にあたっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI「AIとデータサイエンス」(8回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規制(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「AIとデータサイエンス」(8回目)、「基礎情報処理(1)」(14回目) ・データ倫理「AIとデータサイエンス」(8回目) ・AI社会原則「AIとデータサイエンス」(8回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「AIとデータサイエンス」(8回目) ・AIサービスの責任論「AIとデータサイエンス」(8回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「AIとデータサイエンス」(8回目)
	3-2	・情報セキュリティ「AIとデータサイエンス」(9回目)、「基礎情報処理(1)」(14回目)、「基礎情報処理(2)」(7回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意のある情報搾取「AIとデータサイエンス」(8回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「AIとデータサイエンス」(8回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(1,2回目) ・データの分布「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(1,2回目) ・代表値の性質の違い「AIとデータサイエンス」(7回目) ・データのばらつき「AIとデータサイエンス」(7回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「AIとデータサイエンス」(7回目) ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「AIとデータサイエンス」(7回目) ・相関と因果「AIとデータサイエンス」(7回目) ・母集団と標本抽出「AIとデータサイエンス」(7回目) ・統計情報の正しい理解「AIとデータサイエンス」(7回目)
	2-2	・データ表現「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(1,2回目) ・データの図表表現「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(1,2回目) ・データの比較「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(1,2回目) ・不適切なグラフ表現「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(1,2回目) ・優れた可視化事例の紹介「AIとデータサイエンス」(7回目)
	2-3	・データの集計「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(2回目) ・データの並び替え、ランキング「AIとデータサイエンス」(7回目)、「基礎情報処理(2)」(2回目) ・データ解析ツール「AIとデータサイエンス」(7回目) ・表形式のデータ「AIとデータサイエンス」(7回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンス技術を理解する上で必要な基礎知識について様々な事例から学び、また、AIについてもその技術から応用事例までを幅広く学ぶことで、データサイエンス技術やAIについての基本的な知識を習得し、説明できるようになる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和5年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 0人 女性 1144人 (合計 1144人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
人間健康学部	876	255	1,020	14	14	2	2									16	2%
人間教育学部	182	80	320	1	1	0	0									1	0%
経営学部	86	60	240	16	16	32	32									48	20%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	1,144	395	1,580	31	31	34	34	0	0	0	0	0	0	0	0	65	4%

大学等名 園田学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 84 人 (非常勤) 127 人

② プログラムの授業を教えている教員数 2 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 尾崎 誠

(役職名) 情報教育センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 共通教育委員会

(責任者名) 稲垣 憲治

(役職名) 共通教育委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 共通教育委員会規程

⑥ 体制の目的

教養科目を通して、健康・教育・経営への理解を深め、多様化する社会の課題を発見し、計画を立て、解決に向けて考えることができるように共通科目の教育課程編成を審議する委員会である。

⑦ 具体的な構成員

経営学部 ビジネス学科 教授 共通教育委員長 稲垣 憲治
 教学支援部長 雑喉 隆宏
 人間教育学部 児童教育学科 教授 井上 稔浩
 人間教育学部 児童教育学科 教授 芹澤 剛
 経営学部 ビジネス学科 教授 山本 起世子
 経営学部 ビジネス学科 教授 呉 銀澤
 人間健康学部 食物栄養学科 准教授 亀村 典生
 人間教育学部 児童教育学科 准教授 荊木 聡
 経営学部 ビジネス学科 准教授 中井 咲貴子
 短期大学部 生活文化学科 教授 垣東 弘一
 短期大学部 幼児教育学科 講師 森 祐貴

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	4%	令和7年度予定	14%	令和8年度予定	28%
令和9年度予定	52%	令和10年度予定	77%	収容定員(名)	1,580
具体的な計画					
時間割については、なるべく他の科目との重複を避けられるよう再調整することとし、配当年次(1年次)以上での履修も積極的に周知する。 また、履修要件については、履修プログラムとしての周知を徹底するとともに、科目の必修化を検討する。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

時間割については、なるべく他の科目との重複を避けられるよう再調整することとし、配当年次(1年次)以上での履修も積極的に周知する。 また、履修要件については、履修プログラムとしての周知を徹底するとともに、科目の必修化を検討する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

時間割については、なるべく他の科目との重複を避けられるよう再調整することとし、配当年次(1年次)以上での履修も積極的に周知する。 また、履修要件については、履修プログラムとしての周知を徹底するとともに、科目の必修化を検討する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

履修登録期間中、履修に関する相談支援を実施している。
共通科目の履修状況を確認し、学習プログラムの履修について不安を募らせる学生への指導・支援を実施する。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

MicroSoftTeams及び、LMS(manaba)で場所・時間問わず担当教員に質問出来き、教員より常時回答している。
また、教員と連絡が取れない場合は、教務課で質問対応を行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 共通教育委員会

(責任者名) 稲垣 憲治

(役職名) 共通教育委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教学システムから履修データ及び成績データ等抽出を行い、共通教育委員会にて、分析及び確認を行っている。 経営学部や人間教育学部からの履修者は一定数あったものの、人間健康学部からの履修者はほとんどいなかった。要因としては、時間割の都合と科目の履修要件が考えられる。 時間割については、なるべく他の科目との重複を避けられるよう再調整することとし、配当年次(1年次)以上での履修も積極的に周知する。 また、履修要件については、履修プログラムとしての周知を徹底するとともに、科目の必修化を検討する。
学修成果	各科目に対して授業評価アンケートを実施しており、AI・データサイエンス科目に関するアンケートデータより共通教育委員会で確認し、分析を行っている。 AI・データサイエンスプログラム実施年では、AIと言う単語は聞いてはいるが、AI・ビッグデータの活用については疑問を持つ学生が多数いたが、令和6年授業アンケートでは、シラバスの記述の通り実例を上げ、理解しやすい授業を行う事で学生理解度も深められている。 今後は、さらに学びを深められるよう、得られた知識を今後の学習または卒業後の生活に活かすことができるように指導・支援を行いたい。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	※令和6年度 AIとデータサイエンス 授業アンケート集計 授業の内容を十分理解できましたか？ ①強く思う(非常に強い):30.8% ②ややと思う(良い):57.7% 80%強の学生が、理解出来ていると回答があった 基礎情報処理1・2についても、学科によってばらつきはあるもの、80%以上の学生が理解出来ているとの結果が出ている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和6年度 AIとデータサイエンス 授業アンケート集計では、さらに学習を深めたいという履修者が大半を占めることから(96.1%)、大きく授業内容を改善・変更することなく、後輩等他の学生へ授業を提供する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	要因としては、時間割の都合と科目の履修要件が考えられる。 時間割については、なるべく他の科目との重複を避けられるよう再調整することとし、配当年次(1年次)以上での履修も積極的に周知する。 また、履修要件については、履修プログラムとしての周知を徹底するとともに、科目の必修化を検討する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2023年度からの実施であるため、現時点では本プログラムを修了した者はいない。今後は、本学キャリア支援課と連携し、本プログラムを修了した卒業生の進路や採用状況を把握する仕組みを構築していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学キャリア支援課と協力関係のある企業等から本プログラムについての意見を聴取し、必要に応じてブラッシュアップし改善を図る予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	現状の授業内容で履修者の満足度は高水準であるため、現状維持の状況ですすめる。ただし、日々変わるAI等の進化に対する情報についてはいちはやくキャッチし、都度授業内容のブラッシュアップを図ることとする。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	現状の授業内容で履修者の満足度は高水準であるため、現状維持の状況ですすめる。ただし、日々変わるAI等の進化に対する情報についてはいちはやくキャッチし、都度授業内容のブラッシュアップを図ることとする。



シラバス検索

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度	2024	科目分類名	
授業コード		科目分野名	
授業名称	AIとデータサイエンス	対象学科	選択なし
必修/選択		配当年次	
代表教員			
キーワード (OR検索)			

以上の条件で検索

該当件数 2件 (1-2件目を表示)

＜前ページ 1 次ページ＞								
	授業 コード	授業名称	必修/選択	代表教員	科目分類名	科目分野名	対象学科	配当年次
選択	22401041	AIとデータサイエンス（大学共通） 【DC04A007】	選択	尾崎 誠	大学共通科目	自然科学	大学	1
選択	22402091	AIとデータサイエンス（短大共通） 【TC01A006】	選択	尾崎 誠	短大共通科目	社会	短大	1
＜前ページ 1 次ページ＞								



シラバス参照

授業名	AIとデータサイエンス（大学共通）【DC04A007】		
授業形態	講義		
必修/選択	選択	単位数	2.00
科目分類名	大学共通科目		
科目分野名	自然科学		
科目属性			
対象学科	大学		
配当年次	1		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 尾崎 誠	指定なし

授業のテーマ	データサイエンス技術を理解する上で必要な基礎知識について様々な事例から学ぶ。 また、AIについてもその技術から応用事例までを幅広く学ぶ。
授業の到達目標	データサイエンス技術やAIについての基本的な知識を習得し、説明できるようになる。
授業の概要	データサイエンス技術やAIの基礎知識について、実際の応用事例などを中心に解説する。

授業計画

回	内容	授業外学習	授業外学習時間
第1回	オリエンテーション、授業ガイダンス	事前にシラバスを読んでおくこと。	30分
第2回	AIとは？	授業内で指示する。	60分
第3回	社会でどのような変化が起きているか？	授業内で指示する。	60分
第4回	社会でどのようなデータが活用されているのか？	授業内で指示する。	60分
第5回	データ・AIを何に使えるのか？	授業内で指示する。	60分
第6回	データ・AIの技術	授業内で指示する。	60分
第7回	データを読み、理解し、扱う	授業内で指示する。	60分
第8回	データ・AIを扱う時に注意すること	授業内で指示する。	60分
第9回	データ・AIにまつわるセキュリティ	授業内で指示する。	60分
第10回	統計と数学の基本	授業内で指示する。	60分
第11回	アルゴリズムとは何か？	授業内で指示する。	60分
第12回	データの構造とプログラミング	授業内で指示する。	60分
第13回	データを上手に扱うには	授業内で指示する。	60分
第14回	データの活用事例	授業内で指示する。	60分
第15回	まとめ	授業内で指示する。	90分

授業外学習	データサイエンス・AIについての基本理論を習得することが大事である。 そのためには、数多くの事例について学ぶことが重要となる。 ネットニュースなどを活用して多くの事例について学んで欲しい。
成績評価	【評価の方法】 平常評価 【評価の内容】 平常評価（演習課題またはレポート）：80%、平常評価（授業での発表、授業態度）：

	20%
成績評価の基準	【秀】データサイエンス・AIについて正確に理解し、実際の応用事例などが説明できる 【優】データサイエンス・AIについて概ね理解し、実際の応用事例などが説明できる 【良】データサイエンス・AIについて概ね理解し、いくつかの応用事例などが説明できる 【可】データサイエンス・AIについて概ね理解し、問いに答えることができる
伝達と指示	毎回の演習の積み上げが大切なので、授業には必ず出席すること
備考	【ディプロマポリシーとの関連】DP1、DP3
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	毎回の課題の解答については授業内で伝達する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス検索

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度	2024	科目分類名	
授業コード		科目分野名	
授業名称	基礎情報処理 (1)	対象学科	選択なし
必修/選択		配当年次	
代表教員			
キーワード (OR検索)			

以上の条件で検索

該当件数 1件 (1-1件目を表示)

<前ページ 1 次ページ>								
	授業 コード	授業名称	必修/選択	代表教員	科目分類名	科目分野名	対象学科	配当年次
選択	22401068	基礎情報処理 (1) (大学共通) 【DC07A007】	必修	尾崎 誠	大学共通科目	基礎	大学	1
<前ページ 1 次ページ>								



シラバス参照

授業名	基礎情報処理（１）（大学共通）【DC07A007】		
授業形態	演習		
必修/選択	必修	単位数	1.00
科目分類名	大学共通科目		
科目分野名	基礎		
科目属性			
対象学科	大学		
配当年次	1		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 尾崎 誠	指定なし

授業のテーマ	情報リテラシーの習得
授業の到達目標	○学習を通して、コンピュータの基本操作ができる ○解決に向けて目的に応じたアプリケーションの基本活用ができる ○情報活用能力（スキル中心）の基本が理解できる 【修得できる力】気づく力、考える力、知識・技能
授業の概要	今後４年間のコンピュータを使用するときのマナーや基礎的な能力を身に付ける。マナーとしては情報社会における諸問題や情報論理などを解説し、大学における基礎的な能力としては、ワープロ、表計算など基本的なアプリケーションの活用能力、電子メールなどのコミュニケーション能力の育成を目指す。それ以外にも、コンピュータを通じて「情報」の取り扱い方（収集や発信など）を学ぶことを目的とする。

授業計画（フリーテキスト）	※学科の特徴に合わせて、以下の学習内容を組み合わせて授業を構成する。また、興味・関心のある学習内容を選択して学ぶ時間も設ける。（1回90分授業で半期15回） ・オリエンテーション：情報教育のねらいなど、実習室やmanabaの利用方法を学ぶ ・コンピュータの基本操作、プリンターの設定方法を学ぶ ・Microsoft365 チャネル・Chat・ホワイトボードの基本操作 ・Outlook（メールソフト）の基本操作 ・講義、小テスト：情報社会のしくみ ・講義、小テスト：情報倫理・コンピュータと健康 ・タイピング 基礎①・② ・Word 基礎：画面構成・新規作成・基本操作 ・Word 基礎：書式設定・表・ワードアート・画像・図形・印刷 ・Word 基礎：ページ設定・表紙・フッター・Excelグラフ挿入 ・Word 基礎の復習：図形や文書のコピー貼り付け ・Word 基礎の復習：文書の編集とレイアウト ・Word 基礎の復習：表の作成 ・Word 基礎の復習：画像の貼り付け ・Word 基礎の復習：絵はがきの作成 ・Word 基礎の復習：作表 ・Excel 基礎：画面構成・新規作成・基本操作 ・Excel 基礎：ページ設定・ヘッダー/フッター・印刷 ・Excel 基礎：数式・相対/絶対参照・関数（SUM/AVE） ・Excel 基礎：関数（ROUND・INT・IF） ・Excel 基礎：グラフの基礎・棒/円グラフ ・Excel 基礎：複合グラフ ・Excel 基礎の復習：関数ウィザード・並べ替え、グラフ作成、SUM関数・AVE関数 ・Excel 応用：IF関数、OR関数、LookUp関数 ・PowerPoint 基礎①・②・③ ・PowerPoint 基礎の復習：ポスターをつくる、グラフを盛り込んだプレゼン作成 ・ホームページ作成：ホームページ作成サービスを利用してホームページ作成を学ぶ ・検索エンジンを使いこなす ・旅行計画をたてる ・AIを理解する
授業外学習	自学自習を行う上で、自ら計画的に学ぼうとする態度が必要である。 学習の選択をする意向のあるユニットに対して、あらかじめどのような内容かの確認や、新たな専門用語を理解しておく。
テキスト・参考書（参考資料等）	テキスト：電子書籍「情報リテラシー Windows11/Office2021対応」FOM出版 2,200円（税込）。電子書籍は園田学園女子大学生協のみで取り扱いとなり、一斉にアカウント等の登録作業を行いますので、必ず販売期間内に生協で申込んで下さい。 <販売期間> 1年生は、4月3日から5日までに教科書販売売り場で購入 2年生以降は、3月26日・27日に教科書販売売り場で購入
成績評価	【評価の方法や内容】 平常評価（課題）：100% 学習内容（ユニットと呼ぶ）ごとに修了した段階で、担当教員が個人毎の評価を行う。合格していれば、ユニットに割り付けられた点数を得ることができる。その取得点の合計で評価する。また取得した合計得点の他に、必修ユニットがすべて合格していることが前提条件になる。 【評価の基準】 1) コンピュータを使用するときのマナーや基礎的な能力を習得できているか。 2) コンピュータを使って何ができるのか、何をするのかの判断ができるようになっているか。
成績評価の基準	【秀】コンピュータの基本操作ができ、目的に応じたアプリを使いこなすことができる。また、情報活用能力（スキル中心）の基本を実践することができる。 【優】コンピュータの基本操作を理解し、目的に応じたアプリの活用ができる。 【良】コンピュータの基本操作を理解し、自ら実践することができる。 【可】コンピュータの基本操作を理解し、実践することができる。
伝達と指示	毎回、必ず自分のノートパソコンを持参すること。 また、ノートパソコンは十分に充電しておくこと。 各ユニットの課題は、インターネットキャンパス（manaba）のレポート機能を用いて提出を行う。
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	ユニットごとのレポート提出で評価の結果、課題の条件を満たしていない場合は不合格となり、担当教員からのコメントの指示に従って課題の変更・修正を行い再提出することになる。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス検索

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度	2024	科目分類名	
授業コード		科目分野名	
授業名称	基礎情報処理 (2)	対象学科	選択なし
必修/選択		配当年次	
代表教員			
キーワード (OR検索)			

以上の条件で検索

該当件数 1件 (1-1件目を表示)

<前ページ 1 次ページ>								
	授業 コード	授業名称	必修/選択	代表教員	科目分類名	科目分野名	対象学科	配当年次
選択	22401069	基礎情報処理 (2) (大学共通) 【DC07A008】	必修	尾崎 誠	大学共通科目	基礎	大学	1
<前ページ 1 次ページ>								



シラバス参照

授業名	基礎情報処理（２）（大学共通）【DC07A008】		
授業形態	演習		
必修/選択	必修	単位数	1.00
科目分類名	大学共通科目		
科目分野名	基礎		
科目属性			
対象学科	大学		
配当年次	1		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 尾崎 誠	指定なし

授業のテーマ	情報リテラシーの習得
授業の到達目標	○学習を通して、コンピュータの基本操作を自在に活用できる ○解決に向けて目的に応じてアプリケーションの組み合わせて考えて活用できる ○自ら情報活用能力の実践ができる 【修得できる力】気づく力、考える力、知識・技能
授業の概要	基礎情報処理（１）で得たプレゼンテーション、コミュニケーション、コンピューティング等の基礎的情報活用能力を更に発展させ、コンピュータなどの情報機器を問題解決等の場面において自在に活用できる力を見につける。また、情報社会における諸問題や情報倫理、コンピュータに関する事象にも積極的に関心を持ち、情報を正しく取り扱う姿勢や態度を確かなものにする。
授業計画（フリーテキスト）	※学科の特徴に合わせて、以下の学習内容を組み合わせて授業を構成する。また、興味・関心のある学習内容を選択して学ぶ時間も設ける。（1回90分授業で半期15回） ・オリエンテーション：情報教育のねらいなど、実習室やmanabaの利用方法を学ぶ ・コンピュータの基本操作、プリンターの設定方法を学ぶ ・Microsoft365 チャネル・Chat・ホワイトボードの基本操作 ・Outlook（メールソフト）の基本操作 ・講義、小テスト：情報社会のしくみ ・講義、小テスト：情報倫理・コンピュータと健康 ・タイピング 応用 ・Word 基礎：画面構成・新規作成・基本操作 ・Word 基礎：書式設定・表・ワードアート・画像・図形・印刷 ・Word 基礎：ページ設定・表紙・フッター・Excelグラフ挿入 ・Word 基礎の復習：図形や文書のコピー貼り付け ・Word 基礎の復習：文書の編集とレイアウト ・Word 基礎の復習：表の作成 ・Word 基礎の復習：画像の貼り付け ・Word 基礎の復習：絵はがきの作成 ・Word 基礎の復習：作表 ・Excel 基礎：画面構成・新規作成・基本操作 ・Excel 基礎：ページ設定・ヘッダー/フッター・印刷 ・Excel 基礎：数式・相対/絶対参照・関数（SUM/AVE） ・Excel 基礎：関数（ROUND・INT・IF） ・Excel 基礎：グラフの基礎・棒/円グラフ ・Excel 基礎：複合グラフ ・Excel 基礎の復習：関数ウィザード・並べ替え、グラフ作成、SUM関数・AVE関数 ・Excel 応用：IF関数、OR関数、LookUp関数 ・PowerPoint 基礎①・②・③ ・PowerPoint 基礎の復習：ポスターをつくる、グラフを盛り込んだプレゼン作成 ・ホームページ作成：ホームページ作成サービスを利用してホームページ作成を学ぶ ・検索エンジンを使いこなす ・旅行計画をたてる ・AIを理解する

授業外学習	自学自習を行う上で、自ら計画的に学ぼうとする態度が必要である。 学習の選択をする意向のあるユニットに対して、あらかじめどのような内容かの確認や、新たな専門用語を理解しておく。
テキスト・参考書（参考資料等）	【注意】基礎情報処理(1)で、すでに以下のテキストを購入している場合は、購入しません。 テキスト：電子書籍「イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Microsoft365・Office2021対応」1,677円（税込）。電子書籍は園田学園女子大学生協のみで取り扱いとなり、一斉にアカウント等の登録作業を行いますので、必ず販売期間内に生協で申込んで下さい。 ＜販売期間＞ 2年生以降は、3月26日・27日に教科書販売売り場で購入
成績評価	【評価の方法や内容】 平常評価（課題）：100% 学習内容（ユニットと呼ぶ）ごとに修了した段階で、担当教員が個人毎の評価を行う。合格していれば、ユニットに割り付けられた点数を得ることができる。その取得点の合計で評価する。また取得した合計得点の他に、必修ユニットがすべて合格していることが前提条件になる。 【評価の基準】 1) コンピュータを使用するときのマナーや基礎的な能力を習得できているか。 2) コンピュータを使って何ができるのか、何をするのかの判断ができるようになっているか。
成績評価の基準	【秀】コンピュータの基本操作を自在に活用でき、目的に応じてアプリケーションを組み合わせ、使いこなすことができる。また、情報活用能力を実践することができる。 【優】コンピュータの基本操作をもとに、目的に応じてアプリケーションの組み合わせをを考えて活用できる。 【良】コンピュータの基本操作を理解し、自ら自在に活用することができる。 【可】コンピュータの基本操作を理解し、自在に活用することができる。
伝達と指示	毎回、必ず自分のノートパソコンを持参すること。 また、ノートパソコンは十分に充電しておくこと。 各ユニットの課題は、インターネットキャンパス（manaba）のレポート機能を用いて提出を行う。
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	ユニットごとのレポート提出で評価の結果、課題の条件を満たしていない場合は不合格となり、担当教員からのコメントの指示に従って課題の変更・修正を行い再提出することになる。

[ウインドウを閉じる](#)

(1) 大学共通科目（2024年4月以降入学用）

DP1：学習を通して、健康・教育・経営への理解を深め、社会的、精神的、経済的に自立した女性として、自ら行動することができる。

DP2：地域社会での経験のなかで、他者を尊重し支える態度を身につけ、周囲に働きかけることができる。

DP3：多様化する社会の課題を発見し、計画を立て、解決に向けて考えることができる。

分野	科目ナンバリング	授業科目	講義形態	単位	配当年次				履修要件	ディプロマ・ポリシーとの関連		
					1	2	3	4		DP1	DP2	DP3
基幹	DC01A001	女性と社会	講義	2	①②				必修科目を含めて18単位以上を修得すること。 <※全学科：3参照のこと> <※ビジネス学科：4参照のこと>	○		○
	DC01A002	☆大学の社会貢献	講義	2	①②					○	○	○
	DC01A003	生命を考える	講義	2	①					○		○
	DC01A004	☆つながりプロジェクト	演習	2		①				○	○	○
人文科学	DC02A001	文学を楽しむ	講義	2	②					○	○	
	DC02A002	芸能を楽しむ	講義	2	①					○	○	
	DC02A003	世界の宗教	講義	2	②					○	○	
	DC02A004	哲学入門	講義	2	①					○	○	
	DC02A005	地域文化論	講義	2	②					○	○	
	DC02A006	歴史学入門	講義	2	②					○	○	
社会科学	DC03A001	現代社会を読み解く	講義	2	①						○	○
	DC03A002	生活と経済	講義	2	①						○	○
	DC03A003	生活と法律	講義	2	②						○	○
	DC03A004	*日本国憲法	講義	2	①②						○	○
	DC03A005	環境問題を考える	講義	2	②						○	○
自然科学	DC04A001	生き物の世界	講義	2	①					○		○
	DC04A002	暮らしの中の数学	講義	2	②					○		○
	DC04A003	身体のしくみと医学	講義	2	①					○		○
	DC04A005	宇宙と地球の歴史	講義	2	①					○		○
	DC04A006	◇AIとデータサイエンス	講義	2	①②					○		○
国際交流	DC05A001	国際情勢	講義	2	①						○	○
	DC05A002	アジアの文化と社会	講義	2	①						○	○
	DC05A003	オセアニアの文化と社会	講義	2	②						○	○
	DC05A004	実践英語基礎Ⅰ	演習	1	①						○	
	DC05A005	実践英語基礎Ⅱ	演習	1	②						○	
	DC05A006	実践英語応用Ⅰ	演習	1	①						○	
	DC05A007	実践英語応用Ⅱ	演習	1	②						○	
	DC05A008	英会話Ⅰ	演習	1	①						○	
	DC05A009	英会話Ⅱ	演習	1	②						○	

分野	科目ナンバリング	授業科目	講義形態	単位	配当年次				履修要件	ディプロマ・ポリシーとの関連		
					1	2	3	4		DP1	DP2	DP3
eラーニング 基礎	DC05A010	SCCセミナー（１）	講義	2	①②				（必修科目を含めて18単位以上を修得すること。 ＜※全学科：3参照のこと＞ ＜※ビジネス学科：4参照のこと＞）	○		
	DC05A011	SCCセミナー（２）	実習	2	①②						○	○
	DC05A012	海外研修	実習	4	○						○	○
	DC05A013	中国語（１）	演習	1	①						○	
	DC05A014	中国語（２）	演習	1	②						○	
	DC05A015	ハングル（１）	演習	1	①						○	
	DC05A016	ハングル（２）	演習	1	②						○	
	DC06A001	インターネットセミナーⅠ	講義	2	①②				単位を認定するが、卒業要件単位数に含めない。	○		○
	DC06A002	インターネットセミナーⅡ	講義	2	①②					○		○
	DC07A001	☆初年次演習Ⅰ	演習	1	①						○	○
	DC07A002	☆初年次演習Ⅱ	演習	1	②						○	○
	DC07A003	☆日本語表現Ⅰ	演習	1	①						○	○
	DC07A004	☆日本語表現Ⅱ	演習	1	②						○	○
	DC07A005	☆＊英語コミュニケーションⅠ	演習	1	①					○		○
	DC07A006	☆＊英語コミュニケーションⅡ	演習	1	②					○		○
	DC07A007	☆＊◇基礎情報処理（１）	演習	1	①					○		○
	DC07A008	☆＊◇基礎情報処理（２）	演習	1	②					○		○
	DC07A009	＊スポーツ	実技	1	①②					○	○	
	DC07A010	＊体育論	講義	2	②					○	○	
認定科目	DC08A001	単位互換協定科目Ⅰ		2						○		
	DC08A002	単位互換協定科目Ⅱ		2						○		
	DC08A003	単位互換協定科目Ⅲ		2						○		
	DC08A004	ボランティア		1							○	○
	DC08A005	実践キャリアプランニング		1		①					○	○
	DC08A006	インターンシップ		1							○	○

【履修に関する注意事項】

- ☆印を付した授業科目は、必修科目である。また、＊印を付した授業科目は、教職課程を履修する者にとって必修の科目である。
- 授業科目名の末尾に(1)、(2)を付した科目は、(1)を修得した後、(2)が履修できる。
- 「インターネットセミナーⅠ、Ⅱ」は、そのだインターネットキャンパス（manaba）を利用のこと。
- ビジネス学科にあっては、18単位の中に「実践英語基礎Ⅰ」、「実践英語基礎Ⅱ」、「実践英語応用Ⅰ」、「実践英語応用Ⅱ」、「英会話（１）」、「英会話（２）」、「中国語（１）」、「中国語（２）」、「ハングル（１）」、「ハングル（２）」の10科目10単位のうちから4単位以上を選択して含めなければならない。
- 「単位互換協定科目Ⅰ～Ⅲ」は、大学コンソーシアムひょうご神戸の単位互換事業による他大学開放科目を履修し、合格した場合に6単位まで認定される。
詳しくは、大学コンソーシアムひょうご神戸のWEBサイト「募集要項」を確認すること。

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部共通教育委員会規程

(平成25年4月1日制定)

改正 平成27年4月1日 令和4年4月1日

(目的)

第1条 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部の学士力向上のための大学共通科目の推進に必要な事項を審議するため、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部共通教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項等)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学共通科目の教育課程編成に関する事
- (2) 大学共通科目の科目担当者等開講に関する事
- (3) その他大学共通科目の教務についての必要事項

(委員会の構成)

第3条 委員会は次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 教学支援部長
- (2) 学長が指名した者
- (3) 教学支援部の職員

(委員長等)

第4条 委員長は、前条に定める委員で学長が任命する。

- 2 委員会は委員長が招集する。
- 3 委員会に議長を置き、委員長がこれに当たる。

(任期)

第5条 委員長および委員の任期は、1年とする。ただし、補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員長および委員は、再任を妨げない。

(担当部局)

第6条 委員会の事務は、教学支援部教務課がこれを担当する。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別途定める。

付 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部共通教育委員会規程

(平成25年4月1日制定)

改正 平成27年4月1日 令和4年4月1日

(目的)

第1条 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部の学士力向上のための大学共通科目の推進に必要な事項を審議するため、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部共通教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項等)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学共通科目の教育課程編成に関する事
- (2) 大学共通科目の科目担当者等開講に関する事
- (3) その他大学共通科目の教務についての必要事項

(委員会の構成)

第3条 委員会は次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 教学支援部長
- (2) 学長が指名した者
- (3) 教学支援部の職員

(委員長等)

第4条 委員長は、前条に定める委員で学長が任命する。

- 2 委員会は委員長が招集する。
- 3 委員会に議長を置き、委員長がこれに当たる。

(任期)

第5条 委員長および委員の任期は、1年とする。ただし、補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員長および委員は、再任を妨げない。

(担当部局)

第6条 委員会の事務は、教学支援部教務課がこれを担当する。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別途定める。

付 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

大学等名	園田学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

1) プログラムの目的

データサイエンス技術を理解する上で必要な基礎知識について様々な事例から学ぶ。
また、AIについてもその技術から応用事例までを幅広く学ぶ。

2) 身に付けられる能力（到達目標）

データサイエンス技術を理解する上で必要な基礎知識について様々な事例から学び、
また、AIについてもその技術から応用事例までを幅広く学ぶことで、データサイエンス技術やAIについての基本的な知識を習得し、説明できるようになる。

3) 開講されている科目の構成

- ・基礎情報処理 1
- ・基礎情報処理 2
- ・AIとデータサイエンス

4) 修了要件

- ・基礎情報処理（1）、基礎情報処理（2）、
AIとデータサイエンスを修了すること

5) 実施体制

○本学での数理・データサイエンス・AI教育の推進及び質の向上を目的

- ・プログラム運営責任者：尾崎誠（情報教育センター長）
- ・実施体制責任者：稲垣憲治（共通教育委員長）
- ・運営組織：共通教育委員会
- ・事務運営：教学支援部

【基礎情報処理 1】

- ・学習を通して、コンピュータの基本操作ができる
- ・目的に応じたアプリケーションの基本活用ができる
- ・情報活用能力の基本が理解できる

【基礎情報処理 2】

- ・学習を通して、コンピュータの基本操作を自在に活用できる
- ・解決に向けて目的に応じてアプリケーションの組み合わせて考えて活用できる
- ・自ら情報活用能力の実践ができる

【AIとデータサイエンス】

- ・必要な基礎知識について様々な事例
また、AIについてもその技術から応用
事例までを幅広く学ぶ。